



「宮小唄」の唄と踊りを映像化 懐かしい宇都宮の姿を伝える

宇都宮市で
ただ1人の現役芸者
光重さん



完成披露式の記念写真。
左から発案者の足利銀行藤澤智会長、
光重さん、宇都宮商工会議所・閑口快流会頭

宴席に呼ばれて唄や踊りを披露し客を楽しませる「芸者」は、かつて宇都宮市にも100人以上いたと言わっています。しかし高度成長期を境に広い宴会場を持つ旅館や料亭が減少すると、芸者が所属する芸者置屋（料亭などの求めに応じて芸者を手配するところ）も姿を消していき、働く場所を失った芸者たちも一人また1人と減っていました。

「当時の宴席で披露されていた唄や踊りは、大切な伝統文化。今のうちに映像に残しておきたい」と考えた足

利銀行の藤澤智会長と当所閑口快流会頭の発案で、とちぎテレビの協力により、宇都宮市でただ1人の現役芸者・光重さんの踊りを3曲収録し、映像化しました。

現在も現役の芸者を続けている光重さんは、子どもの頃から唄や踊り、華道などを習い、昭和29（1954）年、中学3年生の時に初めてお座敷に上がりました。以来、60年以上にわたって、宴席を楽しませ続けてきました。

今回映像に収められたのは「宮小唄」「六段くずし」「奴さん」の3本。このうち「六段くずし」と「奴さん」は全国で踊られてきた、いわばお座敷の定番です。一方「宮小唄」は、作詞は明治から昭和にかけて活躍した文学者の巖谷小波が手がけ、作曲は作曲家の音楽評論家の町田嘉章によるもの。11番まである歌詞には、二荒山神社や大谷・繁華街などの名所が織り込まれています。



3月13日に収録された光重さんの踊り（「割烹一ハ」にて）

問合せ／総務部 ☎028-637-3131

足利銀行や宇都宮商工会議所が 伝統文化の保存に協力

かつては100人以上いた、宇都宮の芸者たち。現在はたった1人になってしまいました。宴席での唄や踊りを後世に伝えるため、この度ビデオ収録が行われました。

さん。同じ唄や踊りでも、所属の違う芸の違いにもなっています。 「お座敷では、長い曲を抜粋して踊りました」と思い出を話す光重さん。人々や政治家など、多くの方にかわいがついていただきました。生前の高松宮様も、宇都宮においてなる度に私を呼んでくださいました。とても気さくな方でした」と懐かしそうに話してくれました。

芸の伝統を守るだけでなく、宇都宮市の大衆文化の歴史にとどても重要な、今回の3本の映像。現在、当所公式サイトで公開中です。ぜひご覧ください。